

2万5千分1活断層図

■作成の目的

1995年(平成7年)1月の阪神・淡路大震災を契機に、全国の活断層帯のうち、特に地震被害が広範囲に及ぶと考えられる主要な活断層帯について、詳細な位置や関連する地形の分布等の情報を整備し、2万5千分1活断層図として公開しています。

■概要

各機関の活断層研究者で構成する「全国活断層帯情報整備検討委員会」において、空中写真を用いた写真判読等により活断層を抽出し、併せて既存の調査結果も参考にして、活断層の詳細な位置を2万5千分1の地図上にまとめ、画像データにしたものである。これまでに、わが国の主要な活断層帯とその周辺について、223面を公開しています。(2022年(令和4年)9月現在) (図1)

活断層図では、活断層と、活断層を評価する上で重要な指標となる地形を分類して表示しており、活断層の縦ずれ(図2)、横ずれ(図3)などの形態、現時点で活断層かどうか明確に特定できるかなどを読み取ることができます。

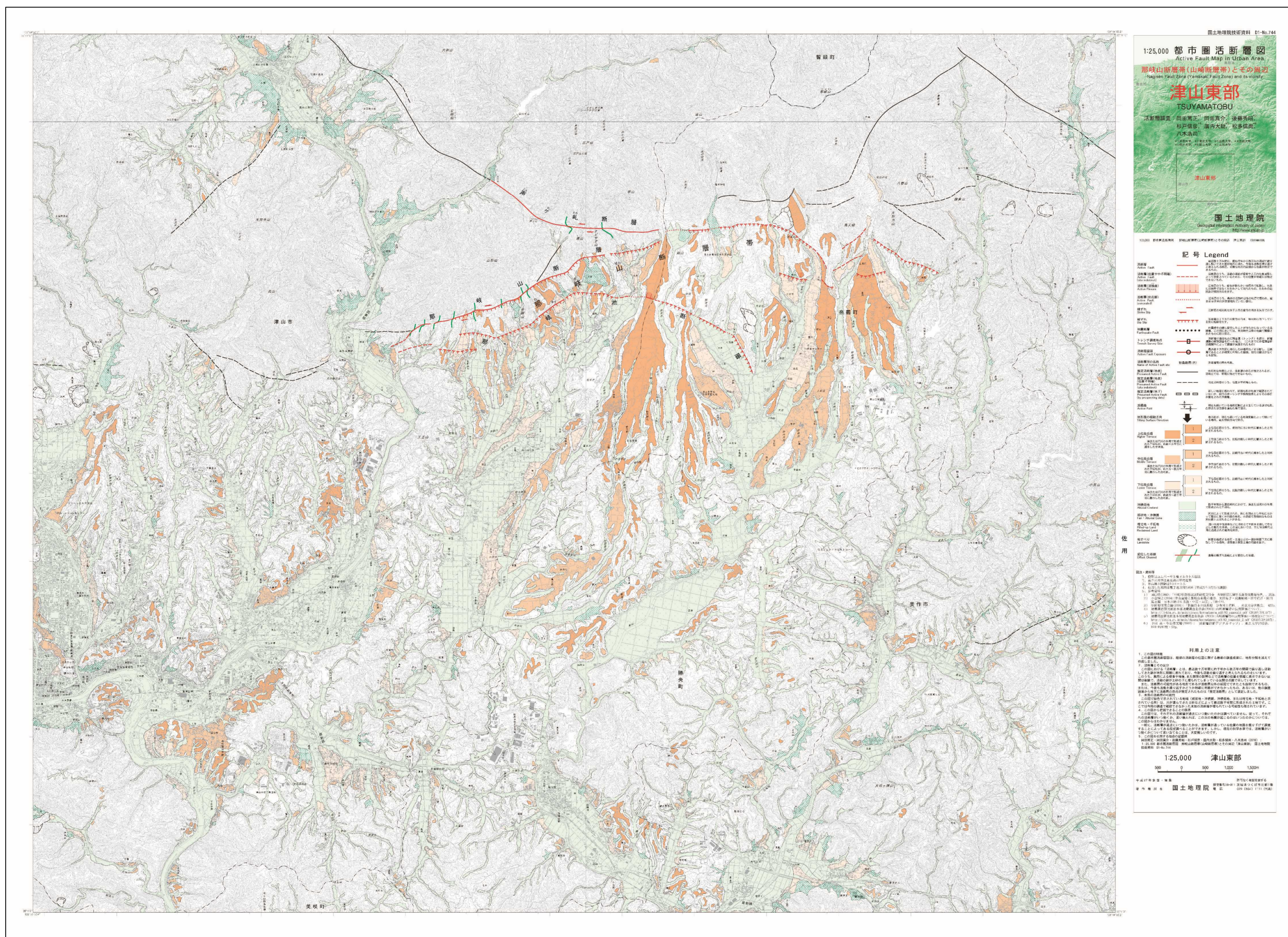


図1 2016年(平成28年)度公開した活断層図のうちの1面 「津山東部」(縮尺変更)

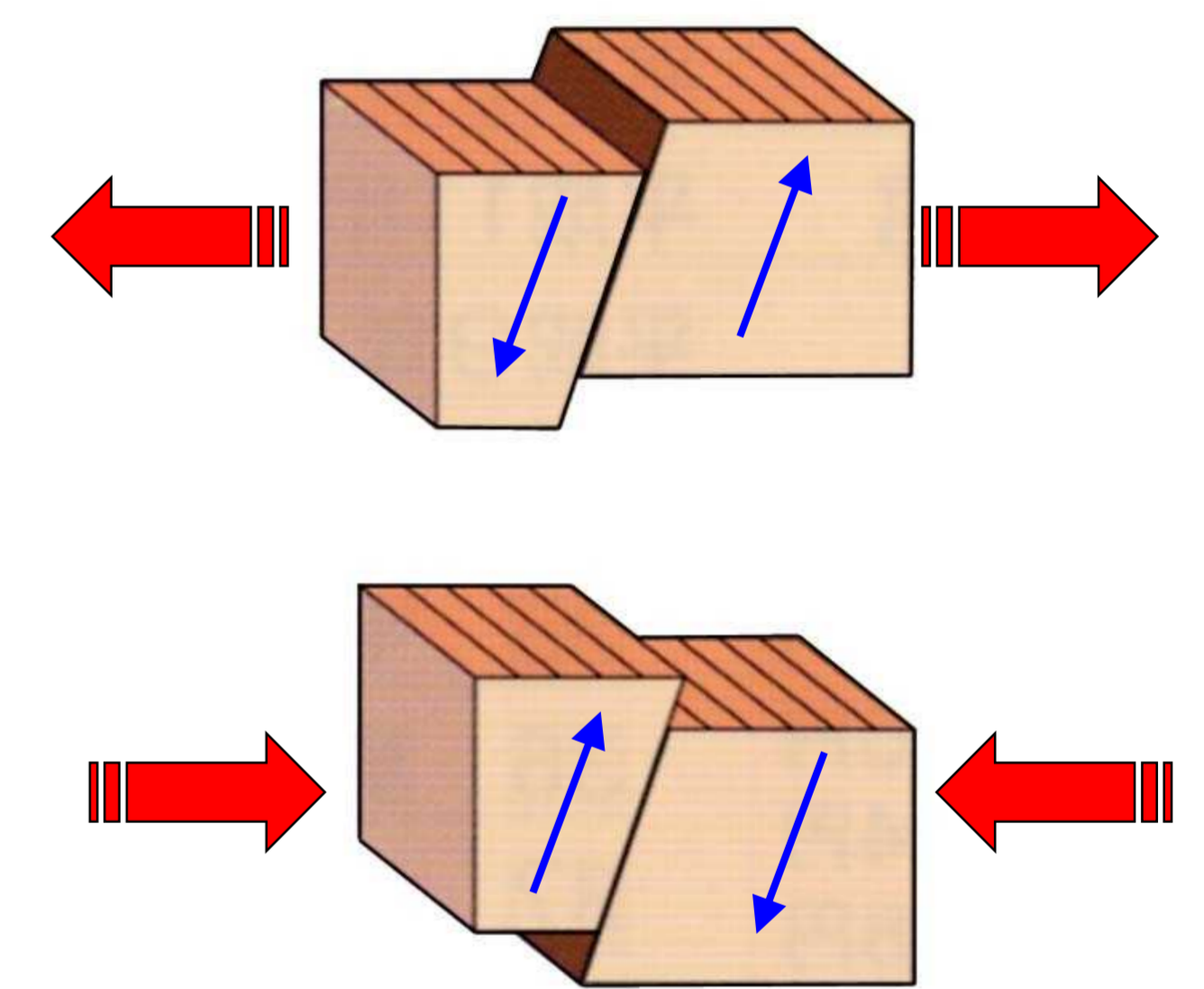


図2 縦ずれ(上:正断層
下:逆断層)

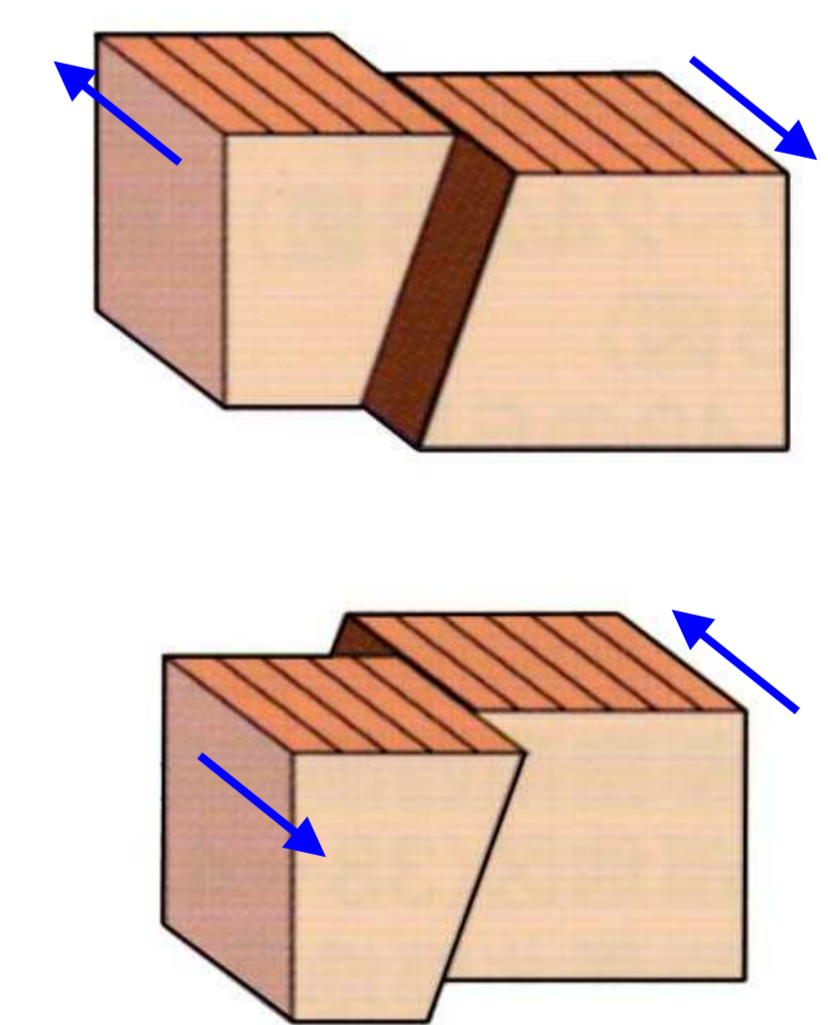


図3 横ずれ(上:右横ずれ
下:左横ずれ)

■活用方法

活断層図は国土地理院のホームページ内で閲覧できます。さらに、ホームページでは、断層帯毎の解説書、利用の手引き、Q&Aなどを公開しています。

また、活断層図は、地方公共団体が作成するハザードマップや防災マップに活断層の情報が活用されているほか、地震調査研究推進本部が行う活断層の長期評価の基礎資料として利用されています。

津波浸水範囲概況図作成

■作成の目的

2011年（平成23年）東北地方太平洋沖地震で顕著な津波被害を受けた東日本の太平洋沿岸について、災害概況把握及び復旧・復興等に役立てていただくために、津波の到達した範囲を抽出した「津波浸水範囲概況図」を作成しました。

■概要

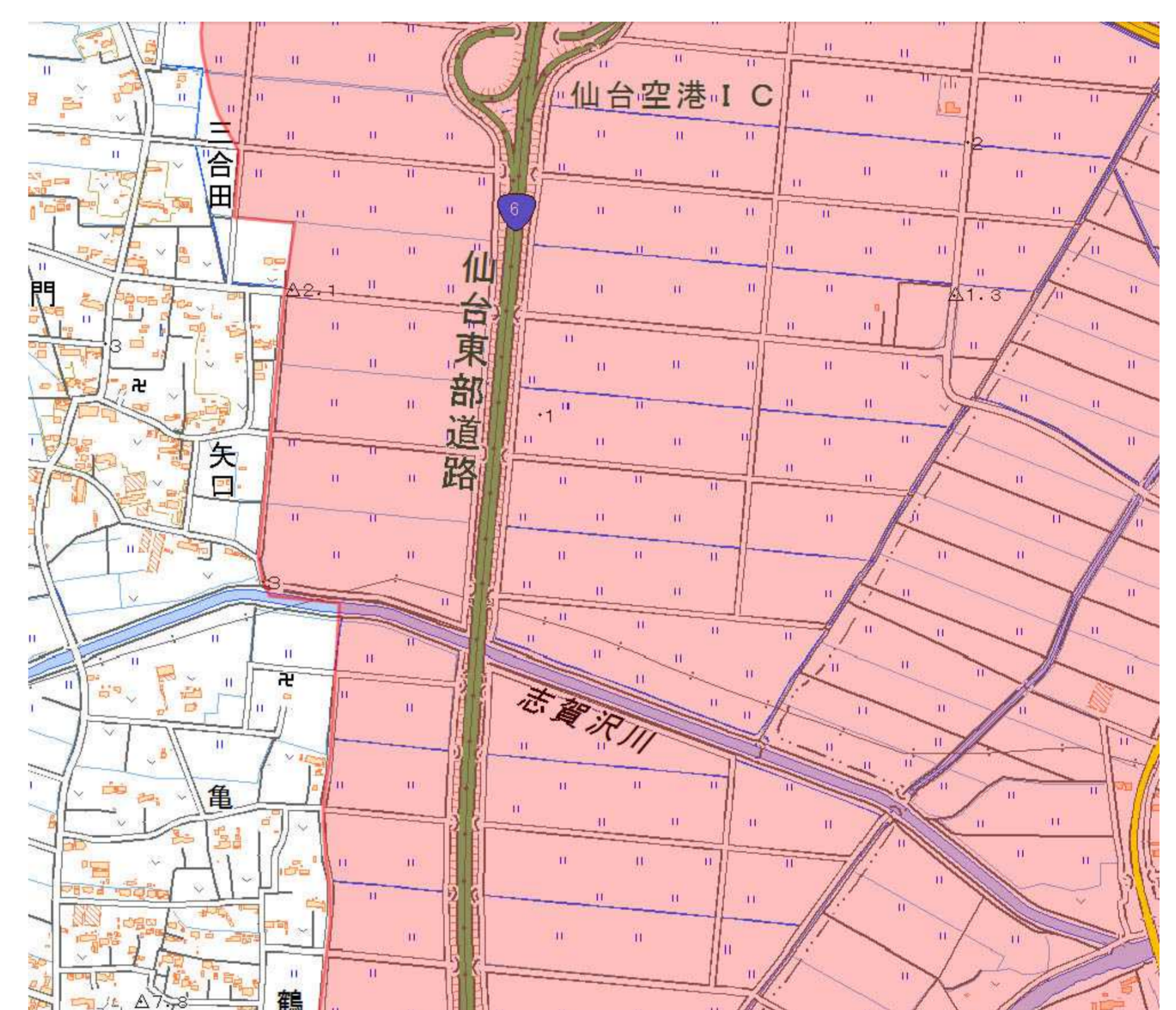
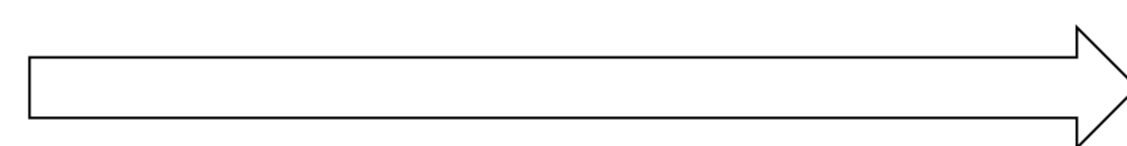
東北地方太平洋沖地震による津波発生後に撮影された空中写真及び衛星画像を使用して、津波による瓦礫の散乱状況や浸水による土地の色調の違いなどを読み取る写真判読技術により、津波の到達した範囲を抽出しました。

その結果をとりまとめ、「津波浸水範囲概況図」として国土地理院Webサイトで一般に公開しています。

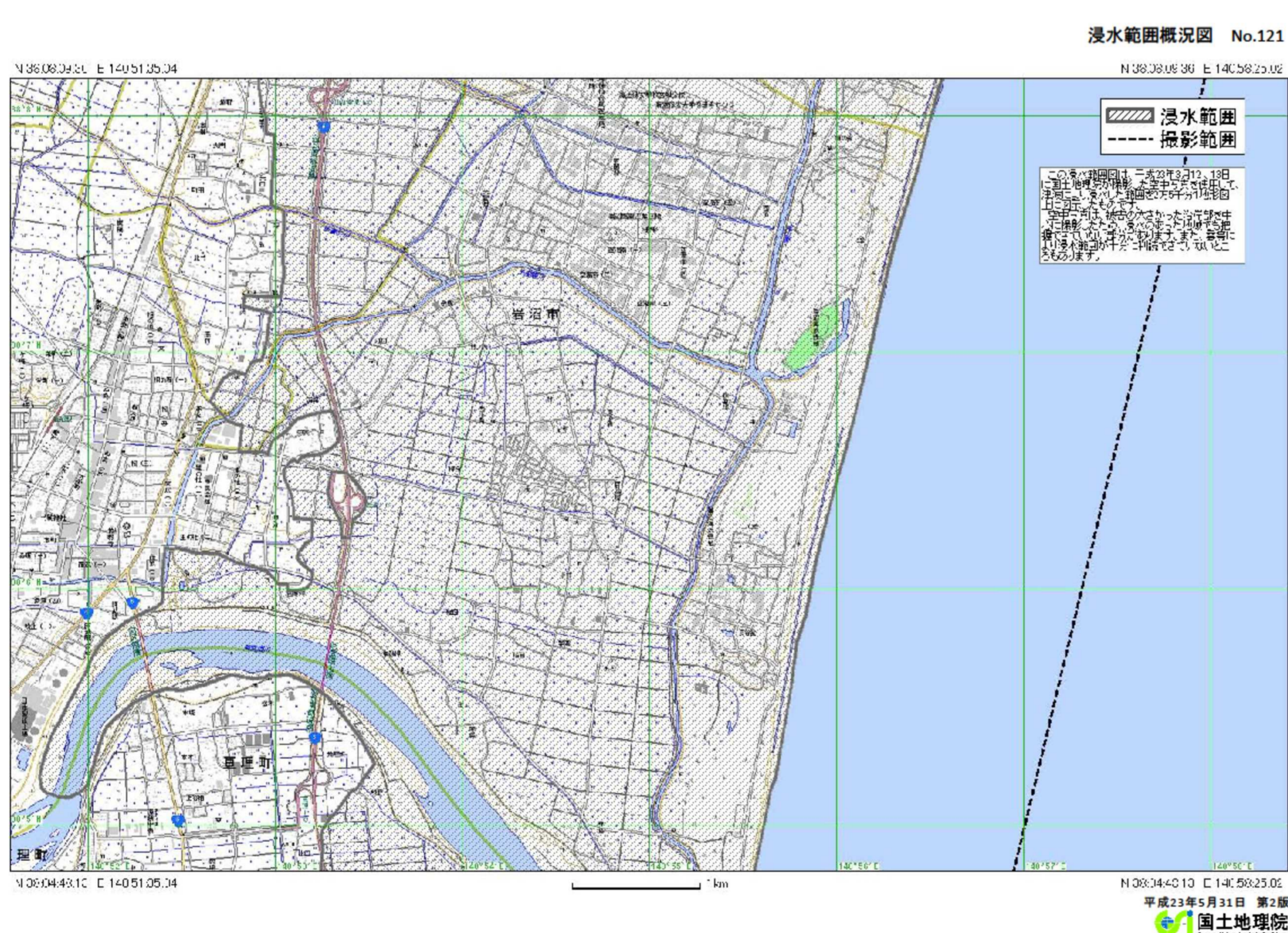


津波発生後に航空機や人工衛星から撮影された写真

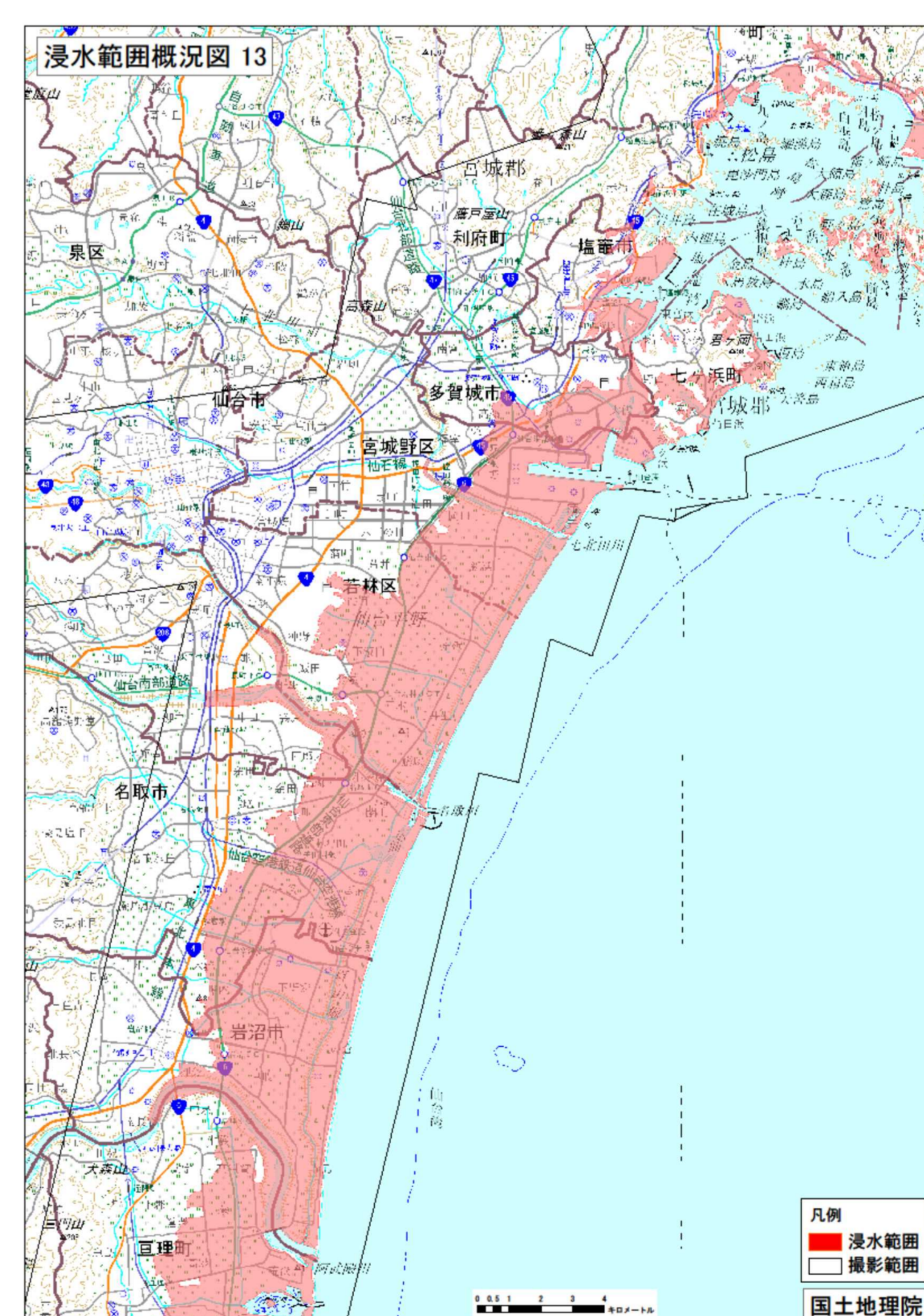
津波で流された瓦礫の散乱状況や浸水による地面の色調の違いなど、津波が到達した痕跡を読み取り、その範囲を地図へ記入。



浸水範囲を地図へ記入したものの



2万5千分1浸水範囲概況図（全184面中的一面）



10万分1浸水範囲概況図（全21面中的一面）

■活用方法

被災地の地方公共団体や国の災害対策本部等に「津波浸水範囲概況図」を配布し、被災者の救援や復旧・復興計画に利用されました。

また、国土地理院Webサイトから公開を行っていますので、一般の方も津波の浸水範囲を知ることができます。